





図1 胃施設検診発見胃がんの推移

(10,537/12,322)である。60歳以上の比率は前年と同率だった。

X線直接検診受診者数は、前年度に比べ598例(4.6%)減少し、年々減少している。要内視鏡率は5.6%(685/12,322)、内視鏡受診率は86.3%(591/685)であった。前年度に比べ、要内視鏡例の内視鏡受診率は上昇し、例年並みとなった。

内視鏡による精密検査結果は、発見胃がん28例、0.23%で、早期がん19例、早期がん率67.9%(19/28)であった。発見胃がん率は例年と同率であったが、発見胃がん率が0.3%前後であった過去数年に比べ、近年は0.2%台に推移している。早期がん率は前年度より上昇した。その他は、ポリープ120例、消化性潰瘍103例、腺腫7

例、粘膜下腫瘍33例、十二指腸ポリープ1例、食道癌6例、その他の悪性腫瘍2例、異常なし211例という結果であった。

### 2) 年齢層別の発見胃がん(表3)

60歳以上の症例を5年きざみの年齢層別に発見胃がんを集計した。胃がん発見率は、60-64歳0.12%、65-69歳0.22%、70-74歳0.20%、75-79歳0.50%、80-84歳0.31%、85歳以上0.51%であった。発見率は75歳以上の高齢層で高率である。

### 3) 初回受診者数の推移(表4)

胃X線施設検診初回受診者数は2,750例、全受診者比は22.3%で、ほぼ前年度並みであった。

表3 年齢層別発見胃がん

区分	受診者数	要内視鏡数	内視鏡受診数		発見胃がん					
					進行	早期	不明	計	発見率	早期がん率
60~64歳	1,663	94	81	86.2%	1	1		2	0.12%	50.0%
65~69歳	3,229	197	173	87.8%	3	4		7	0.22%	57.1%
70~74歳	2,486	148	129	87.2%	2	3		5	0.20%	60.0%
75~79歳	1,783	101	82	81.2%	2	7		9	0.50%	77.8%
80~84歳	975	53	48	90.6%	1	2		3	0.31%	66.7%
85歳以上	392	23	18	78.3%		2		2	0.51%	100.0%

表4 初回受診者数の推移

	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
受診者数	16,704	15,525	14,744	13,687	13,386	13,518	12,920	12,322
初回受診者数	3,555	2,904	2,966	2,616	2,552	2,711	2,847	2,750
	21.3%	18.7%	20.1%	19.1%	19.1%	20.1%	22.0%	22.3%

表5 初回・再診別成績

	受診者数 (A)	要内視鏡 (B)		内視鏡受診者 (C)		発見胃がん (D)		
		(B/A)	(C/B)	(D/A)	進行	早期	深達度不明	
初回	2,750	196		162		5		
		7.1%	82.7%	0.18%	1	4	0	
再診	9,572	489		429		23		
		5.1%	87.7%	0.24%	8	15	0	
合計	12,322	685		591		28		
		5.6%	86.3%	0.23%	9	19	0	

表6 受診形式と発見率

	なし(初回)		2年連続		3年連続		4年連続		隔年		不定期	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
進行がん		1	2		1		4			1		
早期がん	2	2	3		2		8				1	1
深達度不明がん												
がん/受診者数	2/1,121	3/1,599	5/530	0/573	3/566	0/605	12/2,643	0/2,750	0/437	1/631	1/344	1/493
発見率	0.18%	0.19%	0.94%		0.53%		0.45%			0.16%	0.29%	0.20%
がん/受診者数	5/2,750		5/1,103		3/1,171		12/5,393		1/1,068		2/837	
発見率	0.18%		0.45%		0.26%		0.22%		0.09%		0.24%	
早期がん率	80.0%		60.0%		66.7%		66.7%		0.0%		100.0%	

\* 初回は3年以上受診歴なし

表7 発見胃がんの最終検診歴と検診方法

	なし(初回)	1年前(28年度)			2年前(27年度)			3年前(26年度)		
		直接	内視鏡	間接	直接	内視鏡	間接	直接	内視鏡	間接
進行がん	1	7			1					
早期がん	4	12	1		2					
深達度不明がん	0									
計	5	20			3			0		

4) 初回・再診別成績(表5)

初回受診者群の胃がん発見率は0.18%、再診者群では0.24%であった。早期がん率は、初回受診者群80.0%、再診者群65.2%で、前年度より高率であった。

5) 受診形式と発見率(表6)

胃がん発見率は、2年連続受診群、3年連続受診群、4年連続受診群で高く、初回群、隔年

受診群では低かった。早期がん率は、初回群、不定期群で高く、隔年群で低かったが、特定の傾向はみられない。

6) 発見胃がんの最終検診歴と検診方法(表7)

発見胃がん例の最終検診歴を見ると、初回群5例、1年前群20例、2年前群3例であった。1年前群の最終検診方法は直接X線19例、内視鏡1例、2年前群では直接X線3例であった。

表 8 偽陰性

	前年受診	前回検診のダブルチェック状況		前年検診の結果				症例検討会	示 現		
		ダブルチェック	シングルチェック	異常なし	有所見精検不要	要精検	要治療		+	-	±
進行がん	7	7		6	1			7	1	5	1
早期がん	13	12	1	11	1	1		7	1	5	1
深達度不明がん	0										
計	20	19	1	17	2	1		14	2	10	2

表 9 読影形式別成績

	受診者数 (A)	要内視鏡数 (B)	内視鏡受診者 (C)	発 見 胃 が ん						
				総数 (D)	進 行	早 期	深達度 不明がん	発見率 (D/A)	早期 がん率	対内視鏡受診者の 発見率 (D/C)
シングルチェック 機 関 (3)	155	33 (B/A) 21.3%	32 (C/B) 97.0%	0				0.00%	0.00%	0.00%
ダブルチェック 機 関 (97)	12,167 (98.7%)	652 (B/A) 5.4%	559 (C/B) 85.7%	28*2	9*2	19		0.23%	67.9%	5.01%
計 (100機関)	12,322	685	591	28	9	19	0	0.23%	67.9%	4.74%

\* 至急病院に紹介したシングルチェックを含む

### 7) 偽陰性例・前年検診受診症例の検討 (表 8)

久道の定義による偽陰性例、すなわち、発見胃がんのうち前年受診時に異常を指摘されなかった20例についてみると、内訳は、進行がん7例、早期がん13例であった。前年検診時、19例はダブルチェックされていたが、1例はシングルチェックだった。

この20例のうち14例が胃がんフィルム検討会でretrospectiveに検討された。この中で、振り返って前年度のフィルム上で病変を指摘できた症例が2例、14.3%にみられ、発見時には早期がん1例、進行がん1例であった。前年度の画像では病変を明確には指摘できなかった症例が12例、85.7%にみられ、発見時は早期がん6例、進行がん6例であった。

### 8) 読影形式別成績 (表 9)

シングルチェック機関の155例のうち、要内視鏡は33例、21.3%で、内視鏡受診は32例、97.0%、ダブルチェック機関の12,167例のうち、要内視鏡は652例、5.4%で、内視鏡受診は559例、85.7%であった。

シングルチェック機関では発見胃がんはなかった。ダブルチェック機関では28例、0.23%に胃がんが発見され、早期がん率は67.9%だっ

た。対内視鏡受診者の発見率は、ダブルチェック機関では5.01%であった。ダブルチェック機関での発見胃がんの中には、X線検査で明らかに悪性病変が認められ、ダブルチェックを経ずに病院に紹介した症例が2例含まれている。

シングルチェック機関は前年度より減少し、症例数でもダブルチェック症例が98.7%と圧倒的となった。ダブルチェックによる読影形式が更に浸透し、胃がん診断の向上に寄与していると思われる。

### 9) ダブルチェック発見胃がんの内容 (表10)

主治医が異常なしと判定したがダブルチェックにより拾い上げられた胃がんが6例、23.1% (6/26) にみられ、早期がんが4例、進行がんが2例であった。ダブルチェックの有用性が示唆される結果である。

## 3. まとめ

- 1) 胃がん検診のカバー率は22.0%で、前年よりやや減少した。
- 2) 胃直接施設検診における総受診者数は12,322例で、年々減少している。要内視鏡の内視鏡受診率は86.3%と前年度より上昇し、例年並みとなった。発見胃がんは28例、

表10 ダブルチェック発見胃がんの内容

(シングルチェック2件を除く)

	件数	主治医－精検不要 検討委員会－要内視鏡	両方とも 要内視鏡	主治医－要内視鏡 検討委員会－精検不要
進行がん	7	2	5	
早期がん	19	4	14	1
深達度不明がん	0			
計	26	6	19	1

0.23%と前年度とほぼ同率であったが、発見胃がん率0.3%前後であった過去数年に比べ、近年は0.2%台に推移している。早期がん率は67.9%と前年度より上昇した。

- 3) 施設検診の胃がん発見は75歳以上の高齢層で高率であった。
- 4) 検診発見胃がんのうちretrospectiveに検討を行った14例において、振り返って前年度のフィルム上で病変を指摘できた症例が2例、14.3%、病変を明確には指摘できなかった症

例が12例、85.7%にみられた。

- 5) ダブルチェック読影形式が更に浸透し、症例数割合で98.7%となった。施設検診発見胃がん28例のすべてがダブルチェックで拾い上げられた症例で、ダブルチェックによる早期がん率は67.9%である。また、主治医が異常なしと判定したがダブルチェックにより発見された発見胃がんが6例、23.1% (6/26) にみられた。ダブルチェックの有用性が示されている。